

重要テーマ（マテリアリティ）一覧

13の外部環境分類	#1 コーヒーをはじめとする嗜好飲料サイエンス	#4 技術革新	#7 紛争・戦争、テロ、暴動、社会不安	#10 パンデミック、自然災害	#13 ガバナンス・コンプライアンス
	#2 ITセキュリティ、知的財産	#5 人的資本・人権	#8 財務・会計・税務	#11 消費者嗜好・価値観	
	#3 ブランド	#6 気候変動、自然資本・生物多様性、資源枯渇	#9 非財務データ活用	#12 人口増加、高齢化、途上国への資本流入	

AGFグループ重要テーマ (マテリアリティ)	2030年 機会○・リスク●	2030年に向けた重点取組 (色文字＝最重要課題)	取組事例(代表的なもの)	2030年目標	貢献できる SDGsのゴール	貢献できる SDGsの ターゲット
 ココロの健康	#1 ○ココロの健康・Well-beingの重要性の高まり。嗜好飲料成分の健康効果への期待。 ●嗜好飲料の健康影響や超加工食品に対する否定的見解広まる。 自然的健康飲料が生活浸透する。 #2 ○スペシャリティ技術開発&特許化による競合優位性。 #9 ○技術革新によるココロの健康可視化&無形資産化。 ●社会価値評価水準の高まりによる競合劣位。 #11 ○ココロの健康・Well-beingの重要性の高まり。 ●多様な(パーソナル)需要への対応の遅れ。カフェインのネガティブイメージの高まり。 ○海外市場(新興国)での嗜好品需要増。 #12 ●世界でのコーヒー需要の高まりによる生豆逼迫。国内少子高齢化による需要減。 海外既存マーケットの高齢化による需要減。	#1 健康価値強化 #1 嗜好飲料と「ココロの健康」の 相関性見える化 #2 スペシャリティ技術革新 #9 顧客情報の蓄積・分析 #11 嗜好多様化への対応 #11 体験価値の提供 #12 国内少子高齢化への対応 #12 海外含む新市場への参入	◆コーヒー豆マンノオリゴ糖の活用 ◆減糖減脂商品の開発 ◆ココロに寄り添うメッセージ付き商品の 開発販売 ◆災害被災地へのドリンクバー提供 ◆フードバンクへの長期滞留品等商品提供	◆コーヒー豆マンノオリゴ糖など コーヒーの健康価値の拡大 ◆嗜好飲料とココロの健康(メンタル ヘルス)との相関性可視化 ◆嗜好の多様化に合わせた効率的 な多品種生産体制強化 ◆パーソナル商品(スティック/ ドリップ)のメッセージ付与100% ◆3R(Relax/Reset/Refresh) 体験価値提供の新規事業検討・ 拡大		1.1 2.1 3.2 11.5 17.17
 ヒトとのつながり	#3 ○サステナブル取組、ココロの健康イメージが国内・海外で広まる。 ●調達や嗜好飲料成分に対する否定的見解が広まる。 海外戦略、価格戦略のミスリードによるブランド棄損。 #5 ●法令対応遅れ。	#3 ステークホルダーコミュニケーション #5 バリューチェーン・サプライチェーン 全体での人権配慮	◆お客様とともに安心品質No.1を目指した 商品開発、改善 ◆地域の方々と絆を深めるイベント実施 ◆国内外のコーヒー生産地への産業支援 ※徳之島コーヒー生産支援PJ ◆味の素グループ人権ガイドラインの遵守	◆感動品質の提供による お客様の信頼No.1 ◆被災地支援継続 ◆フードバンク支援継続		4.4 5.2 5.5 5.6 8.4 8.5 17.17
 地域環境との共生	#4 ○GX推進による農業・食料分野でのソリューション進展。 ○気候変動対策資金および農家支援に向けた政策支援の拡充。 再生農業に資する製品・ソリューションの需要拡大。 インスタントコーヒー戦略による資源有用。プラ削減機運&マイボトル利用促進。 高気温化によるアイス需要拡大。複数購買化による安定供給。 #6 ●原材料の調達難、コスト増による生活者への商品提供難。 エネルギー政策やインフレ進行による燃料コスト増。 高気温化によるホット飲用需要減少。 #7	#4 GX推進による持続可能性向上 #6 気候変動対策 #6 自然資本・生物多様性保全 #6 原料の持続可能な調達 #6 原料の有効活用化 #7 エネルギー資源の持続可能な調達	◆再エネ活動、省エネ促進 ◆廃棄物の100%リサイクル化 ◆物流効率化とフードロス削減 ◆ガイドラインに沿った環境配慮包装材設計 ◆容器包装3R(リデュース/リユース/リサイクル) 推進による省資源、省プラスチック化 ※ほっとするエコマークでの エシカル消費促進コミュニケーション ◆4C認証のコーヒー豆の購買 ◆FSC®認証の容器包装紙の購買 ◆コーヒー豆の調達ガイドラインの遵守	◆味の素グループ環境負荷50% 削減に貢献 ※2018年比 ◆モーダルシフトの推進 ◆有効利用をされずに環境に流出 するプラごみをゼロに ◆持続可能な調達基準に沿った コーヒー豆調達100% ◆インスタントティー事業の拡大		2.4 13.1 2.a 13.3 6.3 14.1 6.4 15.1 6.6 15.2 7.2 15.4 7.3 17.17 9.4 12.2 12.4 12.5 12.8 12.a
 TEAM AGFの強化	#2 ○知的財産を事業に積極的に活用することで、競争優位性と事業成長に繋がる。 ITセキュリティ強化による顧客信用獲得。 ●情報漏洩リスク。 #4 ○DX推進による新事業価値創造。AIを活用した早期リスク対策。 ●イノベーション進化への対応遅れによる事業機会損失。DX投資や人材確保難。 #5 ○オープン&フラットな風土による組織間連携強化による成果創出。 戦略的人事施策による人材活性&会社エンゲージメントの向上。 ●ハラスメント横行。法令対応遅れ。外部環境の不安定継続による人材流出・確保難。 #8 ●資本コストの急上昇、為替の乱高下による収益影響。 #9 ○タレントマネジメントシステム導入による人材データ一元管理。	#2 知的財産の構成を確立 #2 ITセキュリティ強化 #4 DX・AI活用によるビジネス強化 #5 人的資本の最適化 #5 多様性の尊重(DEI) #8 為替変動への対応 #8 投資最適化 #9 人材データ一元管理 #10 オールハザード対応BCP構築 #13 コーポレートガバナンス強化 #13 コンプライアンス遵守 #13 組織風土向上	◆働きやすく、働きがいのある職場づくり推進活動 ◆健康経営優良法人認定の取得 ◆仕事と育児・介護の両立支援活動 ※プラチナくるみん認定、えるぽし最高位の 認定取得 ◆ガバナンス強化、組織風土向上に向けた 各種研修実施	◆健康経営優良法人の認定継続 ◆味の素グループポリシーを 考える会、人権啓発勉強会の 全社員受講 ◆DX人材育成研修受講者数拡大		5.1 10.2 10.3 16.5 16.7 17.17